

完全優勝!! 3年連続31回目



男子バドミントン

今年の県高総体も瓊浦高校が熱かった。

六月三日から六日にかけて行われた県高総体において、瓊浦生の活躍は目覚ましいものであった。連日、新聞を賑わせる生徒たちの勇姿。各競技会場で、瓊浦の名声を十二分に轟かせてくれた。

今年度の優勝旗は三本。男子ハンドボール、男子バドミントンは圧巻の戦いぶりを見せ、県内に敵なしというところを見せつけた。水泳男子は九年ぶりの総合優勝。各選手がポイントを稼ぎ、最後のリレーでも勝利するなど、チーム全員で勝ち取った栄冠であった。

その他にも残念ながら優勝は逃したものの、卓球男子、女子ハンドボール、ボクシングの準優勝、卓球女子、柔道男子、空手道男子の三位入賞など、多くの競技で華々しい活躍を見せた。

瓊浦

第1号

平成29年7月19日発行
瓊浦高等学校
住所 長崎市伊良林2丁目13番4号
電話 826-1261(代)
FAX 820-5245

2年連続16回目の県制覇!!



男子ハンドボール

毎年、私たちに数多くの感動を与えてくれる高総体。華々しい活躍の裏には、力を発揮できず、涙をのんで引退を迎える三年生も数多く存在する。そうした多くの生徒たちの思いも引き継ぎ、九州大会、全国大会へと駒を進める生徒たちには、悔いのないよう準備し、最高の舞台で、最高のパフォーマンスを見せてもらいたいのだ。

また、個人競技においても、男子バドミントンの完全優勝はもちろんのこと、卓球男女の呂、黄によるシングルス制覇。陸上長距離の林田の二冠達成、水泳男子田中の二冠達成など、各競技で素晴らしい結果を残している。

9年ぶり4回目総合優勝!!



水泳男子

「意識の差が結果の差 目標あって結果あり」
この言葉は当時コーチをしていた父親から教えられたそうだが、この言葉を小学生が言えるのかということに強い衝撃を受けた。子どもながらにしてこの高い意識。成功を取める人はやはり意識が違うということを感じさせられるエピソードである。
そんな登坂選手が大事な試合前によく聞く曲、いわゆる勝負曲がある。それがThe pillowsの「Funny Bunny」という曲だ。ファンの中では大変人気のある曲で、多くのアーティストからカバーもされている。その歌詞がとても良いので紹介したい。
キミの夢が叶うのは 誰かのおかげじゃないぜ
風の強い日を選んで 走ってきた
飛べなくても不安じゃない 地面は続いているんだ
好きな場所へ行こう キミなら それができる
スポーツの世界に限らず、どんな世界においても、一人の力には限界がある。成功の影には、周囲の協力、支えが欠かせない。それはとても貴重なもので、必要なのである。それは間違いない。しかしながら、成功のために何より必要なのは、その人自身の努力なのではないだろうかと思う。周囲の協力が得られるのも、結局はその人の努力があればこそであろう。本場の最後の最後にモノをいうのは、結局はそれまでに積み重ねてきた「努力」なのだ。
今年の県高総体でも、多くの生徒たちが大活躍を果たし、長崎県内に連日のように、瓊浦の名を轟かせてくれた。当然ながら、その成功の裏には、指導者の熱心な指導、家族のサポート、仲間との絆など多くの物語があるに違いない。けれども、本人の努力なくしては、その成功は絶対に得られなかったに違いない。
これから上位大会に進む生徒たちは、これまでに積み重ねてきた練習の数々、自分の努力を誇りとして、精一杯戦ってきてもらいたい。そして、残念ながら県大会で敗れてしまった生徒たちは、これまでの努力を胸に、新たな戦いに挑んでもらいたい。

完全優勝!!

3年連続 男子バドミントン部 県大会優勝!!

まさに圧勝だった。県大会では団体戦、シングルス、ダブルス、どれをとっても瓊浦バドミントン部の独壇場であった。周囲からの「優勝して当たり前」というプレッシャー。そんなものはモノともせず、選手たちは普段通りの力を出し切り、見事三年連続の団体戦優勝を決めた。さらにはシングルス、ダブルスにおいては、ベスト4を独占し、長崎県の高校バドミントン界を瓊浦一色で埋め尽くした結果となった。

続く九州大会。ライバルは昨年も決勝で対戦した、熊本八代東。今の自分たちの力を計るにふさわしい、全国トップレベルの実力を持った相手。村本（普3C）・辻（普3B）がダブルスで相手のエースペアに勝利するなど善戦したものの、結果は一―三で敗れ、九州大会は準優勝で幕を閉じた。

そもそも九州自体のレベルが高く、全国レベルの強豪が各県にひしめき合っている状況。楽に勝利できる試合などそうそうない。そんな中、苦しみながらも決勝まで進んだということ、そして村本・辻の勝利。負けはしたものの収穫も多い大会であった。同時に全国で戦うための課題も見えた。村本・辻の負担軽減。第三、第四の選手の台頭である。いかに強豪と当たるまでにエースのスタミナを温存できるか。そういった戦いが必要になる。

県大会では団体戦三連覇を達成し、県内に敵なしという状況の瓊浦バドミントン部。しかし、彼らが見ているのは長崎の頂点ではない。九州、そして全国の頂点である。もはや、県大会優勝は通過点であり、「おめでとう」の言葉は必要ないのかも知れない。



瓊浦の名が、全国の頂点に立つ。その時が来るのはもう遠くないように感じられる。「日本一を狙える学校」。バドミントン部の皆が日本一になったとき、そのときこそ学校を挙げて彼らに「おめでとう」の言葉をかけよう。

達成!!

県高総体 優勝!!

1500m・5000m

圧勝。 完勝。独走。

「わからないうらいの圧勝劇、男子一五〇〇メートル。」

予選は軽く流して四分〇七秒。レース後、「決勝は二週間前の県選手権で出した自己ベスト三分五十三秒三三の更新をめざす」と話したが、山川先生からは「しっかりレースを作って、しっかりと勝つことを目標に。タイトルを取るのと取らないのでは、今後の方向性が変わってくる」と言われた。

そして迎えた決勝レース。号砲が鳴った瞬間からゴールまで誰も前を走らせることはなかった。まさに完勝、三分五十八秒三三。しかし、ゴール後の彼には笑顔はなかった。

「悔しい...」。レース後、本人が口にした言葉だ。勝ったことよりも自己ベストを更新できなかった悔しさが上回った。山川先生は、「確実にタイトルを取ることが今は求められている。タイムは北九州大会で狙うぞ」と声を掛けた。

新聞の取材に対し山川先生は、「見ている人には、圧勝と映ったかもしれないこのレース。林田にとっては、狙ったペースで走れなくてきついレースになったと思う。他の実力者たちが牽制して、林田についてこなかったこともあり、自分でレースを作る必要があった。しかし、最後まで走り抜ける力は、やはり県内トップ。いや、九州でもそして全国でも通用する。」

それは、大会二日目、三日目に行われた男子五〇〇〇メートルでも同様であった。五〇〇〇メートル予選一組、中学時代に共に汗を流した花尾選手（鎮西学院）と練習を

更なる高みへ!!!

史上最弱から日本一へ!!!

「お前らの代は史上最弱だ!!」
 新チームになって一年間、顧問の末岡先生から常に言われ続けてきた言葉だ。実際、一、二年生の頃から主力として試合に出ていた選手はほとんどおらず、各年代別の日本代表経験のあるような選手もいない。そんなチームが、県高総体で躍動し、見事二年連続十六回目の優勝を勝ち取った。

誰もが耳を疑った。県大会決勝

の相手は長崎工業。長年鎗を削ってきた長崎日大がまさかの準決勝敗退。長崎日大対策を続けてきた選手たちには、少なからず動揺があった。それでも今までにやって来たことを普通にやれば勝てる。そう信じて決勝の舞台に臨んだ。前半こそ接戦だったが、後半に入ると自力の差が出始め、少しずつリードを広げていった。終わってみれば十一点の圧勝。盤石の試合運びで、全国大会出場を勝ち取った。

県大会の勢いそのままに臨んだ九州大会。一回戦の相手は福岡の博多高校。昨年の先輩たちが敗れた相手。自分たちの実力を計るには絶好の相手だった。そんな因縁の相手に見事勝利し、迎えた二回戦は大分の雄城台高校。試合開始からなかなか自分



たちの連携がとれず、常に相手ペースで試合が進み、そのまま敗戦。チームとしての課題がはつきりと浮き彫りになる試合だった。主将の尾崎くん(普3B)は、「九州大会では、自分たちの課題がはつきりわかったことが収穫だった。そういう課題を克服し、全力を出し切ることができれば、全国にも通用すると思う。粘り強いプレーを心掛けた」と、全国への熱い思いを語ってくれた。

八月に行われる全国大会。二回戦の相手は優勝候補の北陸高校。自分たちのプレーさえ出来れば、十分に勝ち進む力はあると信じている。史上最弱から日本一へ。瓊浦ハンドボール部の戦いはこれからが本番だ。



林田翔くん(普1A)

2冠

分五十九秒六九。決勝は、鎮西学院や松浦高校、島原高校等の強豪選手がひしめく中、集団の中でじっくりと待機し、抜け出すタイミングを狙う。三〇〇メートルを過ぎ、松浦高校の扇選手が仕掛け、集団は七名に絞られるも、林田は楽についていき好機を伺っていた。ラスト一周の鐘がなったところで、林田がスパート。あつという間に後続との差が広がり、ゴールタイムは十四分五十九秒八一。ラスト一周だけで後続に十メートル以上の差をつけるほどのエンジンの差。本人はこの結果に、「このタイムでは北九州大会では戦えない。もっと前半からいける体力を養わない」と、冷静に自らの課題を見つめなおす。

高校総体から二週間後、林田選手は福岡で行われた北九州大会で一五〇メートル第三位、五〇〇メートル第六位に入賞し、二種目でインターハイ出場を決めた。七月五日に行われた、インターハイ・甲子園予選壮行式において、「年生らしく、積極的なレースを心掛けた」と語った林田選手。男子一五〇メートル予選は七月二十九日、男子五〇〇メートル予選は七月三十一日。林田くんの夏はまだまだ終わらない。



バレーボール部

1回戦 瓊浦 2-0 創成館
2回戦 瓊浦 0-2 佐世保南



陸上競技部

男子1500m 優勝 林田 洋翔(情1A) **1H出場決定!!**
男子5000m 第3位 香月 鴻汰(機3D) **1H出場決定!!**
男子三段跳 第5位 林田 快豪(機3C)
男子走幅跳 第3位 城尾 朋季(普3D)
女子400mH 第5位 岩崎 瑞希(普3C) **1H出場決定!!**

総体

男子バスケットボール部

1回戦 瓊浦 83-54 佐世保西
2回戦 瓊浦 80-86 島原工業

卓球部

男子団体 準優勝 瓊浦 3-0 大村工業
2回戦 瓊浦 3-0 口加
3回戦 瓊浦 3-0 海星
準々決勝 瓊浦 3-0 鹿町工業
決勝 瓊浦 0-3 鎮西学院
男子シングルス 優勝 呂 昕彦(普2C) **1H出場決定!!**
男子ダブルス 第5位 田中 流星(情2B)
第3位 北原(普2B)・呂
女子団体 第3位 瓊浦 3-0 小浜
1回戦 瓊浦 3-0 海星
2回戦 瓊浦 3-0 長崎西
3回戦 瓊浦 3-1 長崎女子商業
準決勝 瓊浦 2-3 佳怡(普2C) **1H出場決定!!**
女子シングルス 優勝 黄 佳怡(普2C)



女子バスケットボール部

2回戦 瓊浦 66-64 九州文化学園
3回戦 瓊浦 50-78 長崎女子

男子バドミントン部

団体 優勝 瓊浦 3-0 諫早
2回戦 瓊浦 3-0 青雲
3回戦 瓊浦 3-0 佐世保実業
準々決勝 瓊浦 3-0 大村工業
準決勝 瓊浦 3-0 佐世保北
決勝 瓊浦 3-0 竜馬(普3C)
シングル 優勝 村本 竜也(龍普3B)
第3位 辻 凌也(龍普3B)
準優勝 滝口 友士(龍普2A)
中島 巧(龍普1A)
ダブルス 優勝 村本・辻
準優勝 貞方(龍普3B)・滝口
第3位 鶴田(機3C)・西田(龍普3B)
中島・杉本(未普1C)

女子バドミントン部

団体 2回戦 瓊浦 3-0 波佐見
3回戦 瓊浦 0-3 諫早商業



サッカー部

1回戦 瓊浦 0-0 島原 (PK 1-3)

柔道部

男子団体 第3位 予選リーグ 瓊浦 5-0 猶興館
瓊浦 4-0 小浜
決勝トーナメント 準々決勝 瓊浦 3-2 長崎鶴洋
準決勝 瓊浦 0-4 長崎日大
男子66kg級 第2位 丸尾比優馬(普3D)
女子団体 1回戦 瓊浦 1-2 長崎日大
女子70kg級 第3位 平田 純菜(情2A)

ボクシング

団体 第2位
 ライトウェルター級 優勝 岩住 拓弥(機3B)
 1-H出場決定!!
 ピン級 第2位 出口 輝宙(機2B)
 バンタム級 第2位 小川 修也(機3C)



男子ハンドボール部

優勝 瓊浦 35-5 青雲
 2回戦 瓊浦 33-18 佐世保西
 準決勝 瓊浦 29-19 長崎工業
 決勝 瓊浦

女子ハンドボール部

準優勝 瓊浦 25-19 純心女子
 2回戦 瓊浦 23-17 佐世保商業
 準決勝 瓊浦 17-25 清峰
 決勝 瓊浦

県高【結】

空手道部

男子団体組手 第3位



剣道部

男子団体 1次リーグ 瓊浦 5-0 佐世保西
 2次リーグ 瓊浦 1-1 彦岐
 女子団体 1次リーグ 瓊浦 0-1 島原中央
 2次リーグ 瓊浦 0-4 長崎南山
 2次リーグ 瓊浦 4-1 島原商業
 瓊浦 1-3 大村
 瓊浦 0-4 長崎北



水泳部

男子団体 優勝 田中 修人(情1B)
 男子500m自由形 優勝 荒木 友輔(龍機3A)
 男子1000m自由形 優勝 田中 修人
 男子2000m自由形 優勝 佐藤 郁也(機2C)
 男子4000m自由形 第5位 三田 拓人(機2D)
 男子1500m自由形 第5位 三田 拓人
 男子1000m平泳ぎ 第2位 横山 遼(機3D)
 男子2000m平泳ぎ 第6位 横山 遼
 男子1000mバタフライ 第4位 山口 吉生(機3C)
 男子500mバタフライ 第2位 宮野 幸輝(機2B)

ソフトテニスサークル

男子団体 2回戦 瓊浦 3-0 創成館
 3回戦 瓊浦 0-2 長崎工業



男子2000mバタフライ 第4位 川口 響(情2A)
 男子2000m個人メドレー 第3位 川口 響
 男子4000m個人メドレー 第6位 佐藤 郁也
 男子4000m個人メドレー 第4位 佐藤 郁也
 男子4000m個人メドレー 第6位 濱山 開(龍機2A)
 男子4000m個人メドレー 第4位 淵上 翔太(普3B)
 男子8000mフリーレー 第4位 荒木 佐藤・田中
 男子8000mフリーレー 優勝 有森(普2C)
 男子4000mフリーレー 優勝 横山・山口(機3C)
 男子4000mフリーレー 優勝 佐藤・田中
 男子4000mフリーレー 第3位 横山・志水(機3C)
 男子1000m背泳ぎ 第5位 川口・田中
 女子4000m自由形 優勝 中村 絢香(情1A)
 女子8000m自由形 優勝 原口くるみ(情1A)
 女子4000mフリーレー 第5位 原口くるみ
 女子8000mフリーレー 第5位 原口・古川(普2B)
 女子4000mフリーレー 第6位 小川(普1B)
 女子8000mフリーレー 第6位 林田(情3A)
 女子8000mフリーレー 第6位 原口・中村・古川
 女子4000mフリーレー 第6位 林田
 女子4000mフリーレー 第6位 林田・林(情3A)
 女子4000mフリーレー 第6位 小川・原口

『古豪復活』へ!!

男子バスケットボール部 新体制始動!!

今年三月で、長年瓊浦バスケットボールを指導してこられた御手洗先生が勇退され、長崎西高などで全国大会出場経験もある植生浩二先生が新たに顧問となった。新体制発足に伴い、有力な一年生の加入、さらにはコンゴからの留学生も加入し、新体制は県内でも注目を受ける豪華な顔ぶれで幕を開けた。

そして迎える初の高総体。一回戦は順当に勝ち進み迎えた島原工業との二回戦。序盤から相手の厳しいディフェンスやシュート精度の高さに苦しめられ、前半を終えたときには十八点差という大きなリードを許した。このままあっさ

りと負けてしまうのかと思われた後半、怒濤の追撃が始まった。会場が瓊浦体育館ということもあり、観客の多くが瓊浦の生徒たち。大応援団の声援の中、一時は一点差まで迫る粘りを見せる選手たち。点差を詰めては離されるシューティングゲームが続ぎ、最後には六点差で敗れてしまったものの、十分にその力の片鱗は見せてくれた。

植生先生は高総体を振り返って、「二、三年生主体のチームということもあり、まだまだ経験不足の面は否めなかった。そんな中で良い戦いをしたと思う」と語ってくれた。高総体で三年生の多くが引退し、改めて新チームとなる瓊

浦バスケットボール部。そのミーティングの中で何度も言われたのが「意識の改善」だ。バスケットに対する意識はもちろん、普段の生活からの意識の改善。チーム全員で目標に向かって戦うことの重要性を時間を掛けて話した植生先生。「今の一、二年生は力のある子が多数いるので非常に楽しみに期待したい」と明るい展望を語った。

部のテーマは「古豪復活」。次の目標は、県大会で優勝しての全国大会出場だ。これまで以上に気合を入れ、チーム一丸となって練習に取り組む選手たち。これからの男子バスケットボール部の活躍から目が離せない。



部のテーマは「古豪復活」。次の目標は、県大会で優勝しての全国大会出場だ。これまで以上に気合を入れ、チーム一丸となって練習に取り組む選手たち。これからの男子バスケットボール部の活躍から目が離せない。



平成29年度2学期行事予定

- 8月 28日 始業式
- 29日 第2回実力考査 (1、2年)
- 30日 体育祭特別時間割 (30日)
- 9月 7日 体育祭予行練習
- 9日 体育祭
- 11日 振替休日(体育祭)
- 12日 就職出陣式(3年)
- 15日 入試説明会(中学校)
- 23日 県高校生ロボットコンクール
- 26日 入試説明会(塾)
- 30日 第3回学校見学会
- 10月 3日 中間考査(6日)
- 4日 振替休日
- (第3回学校見学会)
- 7日 秋季学習合宿 (30日)
- 10日 勤労体験学習(2年)
- 12日 球技大会
- 11月 2日 私学振興大会
- 3日 瓊浦祭(4日)
- 6日 振替休日(瓊浦祭)
- 7日 振替休日(瓊浦祭)
- 20日 自動車学校説明会 (3年)
- 30日 期末考査(5日)
- 12月 7日 人権教育
- 12日 進路ガイダンス(1年)
- 21日 終業式